

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800128		
法人名	医療法人社団 三森会		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地	熊本県山鹿市久原5623-1		
自己評価作成日	平成25年11月23日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事に参加し、ご近所、保育園との交流が定着しつつあり、夏祭り、野外活動等ボランティアとして協力を得ている。みかん狩り、収穫されたばかりの野菜の差し入れがあり、施設では、手づくり団子等入所者と共に季節に応じた行事を行ない収穫し、味わってもらう。又ご家族はじめ「当施設に入れて良かった」「自分の両親もここに入れてたい」と思えるようなホームでありたい、これからもより質の向上を目指して介護にあたって行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年に満たないホームであるが、その取り組みは地域密着型の事業所として、地元確実に浸透しつつある。入居者が地域の一員として暮らしていくためのツールとして職員自身が地元行事に参加し、行政と共同して認知症のサポートリーダー養成に関わり、火災訓練時には近隣住民や地元消防団が協力して、より安全な生活環境が地域との連携により実現している。また、運営推進会議が地域とを取り持つ情報交換の場として活かされ、夏祭りのテントの借り入れや、ボランティアによる馴染みの灯笼踊りの披露など入居者の日々をより豊かなものになっている。山々の木々が美しい環境の中、入居者と職員が自然体で暮らしており、来訪者をもてなす入居者やそれを見守る職員の姿が日常を物語り、今後も変わらぬ支援が継続されることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務日誌に事業所の理念を貼り、申し送り時にスタッフ全員で唱和し、常に意識を持って介護にあたるように共有している。	理念をホーム内に掲示し、業務日誌に綴じ込むことで、職員が何時でも目にする環境を作っている。毎朝の申し送りで法人理念である「職員の四つの誓い」と共に唱和して更に共有化を図り、一日をスタートさせている。開所から三年目を向かえ地域交流の基盤が着実に形となって表れてきており、職員は人々との出会いの場でホームの取り組みを通じて原点となる理念を啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での清掃活動や学校、保育園との交流を大切にし、ホームでの活動、行事には積極的に声かけを行なっている。夏祭り、敬老会に近隣のボランティアの方々の協力を得ている。	ホームは自治会に加入し、組費の支払いやゴミ収集日の担当、年2回清掃活動に地域住民の一人として参加している。保育園児の訪問を入居者が毎回心待ちにされており、散歩中の園児の休憩所として提供している。火災訓練時の近隣住民や地元消防団の協力、ボランティアと共同して行政主催の認知症サポートリーダーの研修に職員が参加している。3回目となる夏祭りには地域や家族に呼びかけ、交流の柱として盛大に行われている。	入居者が近隣保育園児との交流を楽しみにされており、今後機会があればこちらから出かけるなど相互交流に繋がる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園、小学校との交流会や事業所の行事等近隣の方へ呼びかけを行ない、参加して頂き、理解を得られるように活動をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にホームの行事を提案し意見や助言を参考にして、サービス向上に努めている。	二ヵ月ごとの定期開催が実現しており、包括や自治会の各代表者、家族、入居者の代表、認知症サポートリーダーが参加している。会の冒頭には、前回会議の内容を管理者が説明して全員で確認し、流れを継続させながら参加者の意見の引き出しに繋げるなど工夫している。ホームの現状や活動報告と共に火災訓練の告知や職員体制について詳しく紹介している。	会議には地域の代表者が毎回参加し、意見交換や地域情報の収集が活発に行われており、引き続き代表者以外の家族の参加を呼び掛けながら、議事録の開示方法については検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、入所時の疑問や分かりにくい所等、相談、助言をいただいている。	職員が行政主催のサポートリーダーとして徘徊模擬訓練や、各研修に参加しており、管理者は相談事や質問があれば電話で直接担当者と話し指示を仰いでいる。包括職員の推進会議での発言を運営に活かし、書類の記録方法などについて地域同業者のもとを訪れるなど、各機関と有効な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入りできるように玄関、ホール内は施錠はしていない。	市主催の外部研修の伝達講習や日々のカンファレンスで身体拘束への認識を深め、法人の「接遇委員会」に職員が委員として勉強会に参加している。センサーマットの使用については家族との協議で購入を決定し、使用過程を報告している。玄関やホーム内はオープンであり、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での「接遇委員会」に月1回は参加し目標を掲げ、各部署での問題解決をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員に資料を配布しているが、今後も継続して学習会や研修会には参加をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用希望の連絡があった際は建物の構造を説明し案内するとともに、入居されている雰囲気を感じて頂き、利用料金は一覧表を用いてわかりやすいように説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらったり、家族の面会時、家族会開催時に意見や要望を聞き入れている。	家族の意見や要望は家族会や面会時に顔を見て直接話を聞くように努めている。入居者へは日頃の関わりの中で、ホームで何をしたいか？何を食べたいか？など生活に密着した分かりやすい選択肢を投げかけ、本屋への外出や、入居間もない方の希望に家族への電話で安心してもらおうなどの対応に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議を行ない1人1人の意見を聞き業務に反映している。又午後のカンファレンスの時間(20分～30分)に緊急課題が発生した場合は解決に向け提案する。	月のミーティングでは司会と書記を職員が輪番で担当し、一人ひとりが責任を持って会議に臨むよう、体制作りの場としても活かされている。新たに入職した男性職員が棚作りや茶畑の手入れに率先して関わり、女性職員をカバーするなどチームプレーが発揮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所持者は給与に反映してやりがいとなり、スタッフの努力、向上心につながるように評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役割をスタッフ全員に割り振り責任感を持たせると共に研修に参加してもらい伝達報告してスタッフ全員で共有していけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿市、菊池市のグループホーム事業所の関係者及び研修会には積極的に参加し、人脈を広げ情報交換、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の面会時、本人とのかかわりを大切にし、利用者の行動状態を把握し不安を軽減できるように信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの状況を聞き、信頼関係を保てるように担当者が要望や困っていることを尋ねて安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要であればそれに応えられるように家族の方との連絡をに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしているという気持ちを持って、1人1人の人格を持たれた人生の先輩としての尊敬を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも行事に参加、協力をして貰い交流を深めていく事で入所後の状況も理解して頂き、良い関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくりとした時間と会話ができるように自室で共有できる時間を設定したり、老人会、同窓会、法事等参加の希望があれば、家族と調整し参加して頂いている。	入居者との会話や生活歴から馴染みの神社や本の購入に出かけている。週一回自宅での泊りや、法事などへの帰宅、選挙への参加など家族の協力によるところも大きく、継続して支援している。顔なじみとなった理容師による訪問カットや、懐かしい茶摘みや干し柿作りなど入居者の経験が活かせる場も設定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ゆっくり出来るような雰囲気作りに努めると ともに、それぞれの居場所を大切に、トラ ブルが起きないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後入院された方は面会に行き 家族と共に精神的フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	1人1人の意向を聞き、外出外泊等希望が あれば、家族と相談の上、要望に沿えるよう に努力している。リハビリなど希望される方 は病院まで送迎している。	職員はリビングでの会話や入浴中に1対1 で入居者の希望を聞き取り、支援の中に 反映するように努めている。外出先や食 事の希望には具体例を示し、ホームでの 生活がより良いものになるよう家族と連携 しプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所者とご家族から情報を得て、なるべく、 これまでと同じような生活の援助が継続でき るように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日誌、スタッフからの情報で、1日のすごし 方や心身の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、家族の意向を出来るだけ確認した上 でスタッフからの情報を集め、介護計画を作 成している。	入居者の現状とそれぞれの背景を考慮 し、本人・家族の意向をもとにしたプラン作 成が行われている。不眠を訴える入居者 には夜間帯のトイレ回数が頻回なために 気にして起きておられることに着目し、日 中の全体活動後の個人レクリエーションの 充実を図り、安眠に繋がる支援を取り入 れている。3ヶ月ごとの評価で分析し、見 直した内容をケアの中に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送り、午後からのミーティングなどでスタッフからの情報を得て、問題解決を早急にできるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出外泊も家族と本人の希望を取り入れ本人のニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出外泊も家族と本人の希望を取り入れ本人のニーズに対応できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日バイタルをチェックし主治医に報告し、必要時外来受診し、本人や家族の希望に沿った対応をしている。	緊急時対応の面から全員が法人医療機関をかかりつけ医として、月一回の往診が行われている。毎朝の健康チェック後は主治医に報告を行うなど、細やかな医療体制は入居者・家族の安心・信頼に繋がっている。また、訪問歯科と連携し、義歯や自歯の最良の状態を食を楽しめるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前中にバイタルチェックし、午後の入浴時皮膚の観察をして、異常があったら病院へ連絡し指示を受け、外来受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院または転院時、お見舞いを兼ね入院その後の経過を先生や病棟婦長に訪ねるなど、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームとしては「看取り」はしておらず、入居時の契約時に説明理解を得ている。重症化した場合病院で診て頂いている。	看取り支援は現在のところ実施されていない。入居時にホームの方針を伝え、重度化した場合は医療機関の対応となることで了承を得ている。	ホームとして看取り支援は実施されていないが、看護師として経験を重ねた管理者により、引き続き緊急時の対応や、入居者・家族を支えるホームの役割について研修会の開催、共有の機会を持たれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、年2回の訓練の内、1回は救急隊から実技を加えた緊急法をスタッフ全員が習得し、対応できるように今後も継続して学んでいく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルに基づき、年2回の火災訓練時、地域住民にも参加して頂き、秋は夜間想定火災訓練を行ない。初期消火、避難訓練、消火器の取り扱い方を実演をし、全スタッフが迅速な対応が出来るよう継続的訓練を実施している。	今年度2回の火災避難訓練が実施されている。四月の訓練では、消防署や地域消防団も参加しホーム内の間取りを確認してもらっている。二回目の訓練は夜間を想定して行われ、訓練後は職員間で今後繋がる意見を出し合っている。AEDの取り扱いについても職員が迅速に対応し活用できるよう訓練を重ねている。	今後は職員で必要な備蓄や保管場所を検討し、有事に備えて行かれることが必要と思われる。また、日々の安全チェックを日誌の中に設け意識付けを図ったり、行政や地区代表も参加する推進会議の中で、自然災害について話し合いを持たれる事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の重視を理念に掲げ、言葉かけや対応で不愉快な思いをされることがないよう、1人1人の人格に配慮したケアに心がけている。	法人全体で開催される接遇に関する研修会に参加する他、方言を交えながらも入居者を尊重した対応に努めることなどをホーム内で共有している。呼称は苗字にさんを付ける事を基本とし、個人の重要書類は事務所や倉庫に保管している。	玄関先に置かれている面会簿については、個人情報観点からも記入方法の検討が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者が過ごしたい場所でのんびりできるように本人の意思を尊重し、1日の日課表は作っておらず、レクリエーションへの参加の有無は本人の意思に任せているが、好みは取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方起床、就寝などは利用者が好きな時好きな時間に行なってもらい、利用者の気持ちを最優先に考え強制的に促すことはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣、入浴時の衣類は本人好みで選んでもらっている。散髪は2ヶ月に1回は地域の床屋さんからの出張してもらい身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に野菜の皮剥き、米とぎ、後片づけなど手伝っていただいている。又、菜園で収穫した野菜や近隣からいただいた野菜も調理に使用している。	法人栄養部から届く献立を利用しながら、時には「自由献立」として冷蔵庫の中を確認し、入居者の希望や職員のアイデアを活かしたメニューの提供も行っている。差し入れや菜園で収穫した新鮮な野菜の活用は、季節感をもたらす楽しみの一つとなっている。食材の下ごしらえやおやつ作り、男性入居者には味の評価など、できることで食への関わりを支援している。職員は見守りや介助を行いながらホールに会話の響く楽しい食事風景であった。	家族との信頼関係に努めているホームは、今後、家族と一緒にピザ作りを行いたいという職員の提案が出されている。楽しい食への取り組みとしても実現が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックを作成し1人1人に合わせた分量を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを実施し、磨き残しがないようにチェックし治療が必要な場合、訪問歯科と連携し適切なケアが出来るようにしている。義歯は週3回ポリドントに浸す。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	個々の排泄パターンをチェック表にて把握している。職員の気づきや関わりから排泄がスムーズに正常化し、心身とも落ち着かれた方もあるなど排泄支援の重要性から大腸肛門科の研修会にも積極的に参加している。トイレは常に清潔を保ち、トイレ内の室温も測定しヒートショック予防に繋がっている。夜間帯使用される方のポータブルトイレも清浄や消毒が徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便の有無、量、形状を確認し、水分補給や活動量を把握して、必要に応じ下剤の使用でスムーズな排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は交替で1日おきに決まっているが、希望を聞いて本人決めて頂き、心身共にゆっくりできるように個人のペースで介助も行なっている。	一日おきの入浴を支援しているが、希望や汚染時にはその都度対応している。明るい浴室で、職員はゆっくりとした入浴支援に努め、拒否の場合は職員を交代したり、別日に対応している。季節の菖蒲や柚子は差入れされることも多く、特に柚子湯支援では、数日実施することで全入居者が楽しめるようにしている。	入居者のADLの低下に伴い浴室整備も検討しており、実現により今後の入浴支援が更に安全に展開されていくことが期待される。また、浴室内の洗剤の置き場所については、安全面からも保管場所の検討が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて居室にて休息をとって頂き、居室の室温、湿度管理も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬チェック表を作成し、誤薬がないよう、確実な服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の楽しみを把握するために生活歴の資料を作り、体操、ゲーム、カラオケ、色塗りなど好きな事をして、豊かな日々を過ごすべく努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や体調を見て散歩などに出かけるようにしている。戸外に出ることで気分転換を図られるため、今後も継続しての計画を立てている。	気候に応じて庭やデッキに出て、散歩や外気浴を行ったり、個別支援で日用品や本の購入など希望に応じて支援している。この秋は目的地で安全に見物できるよう、全入居者分の車椅子を準備し菊人形展に出かけるなど、職員の配慮が窺える。また、美容室利用や法事・選挙・楽しみにされている宝くじ購入など家族の協力による多くの外出が行われている。その他、外泊を希望される場合は家族に調整してもらったり、県外から帰省される家族と自宅へ帰り、外食を楽しまれる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時には預り金利用し、好きな物を購入してもらえるように配慮しているが、今後は近所のお店での買い物定期的に本人が出来るようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望があればいつでもかけて差し上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事(お雛様、五月人形、七夕飾り)を飾り、玄関、ホールには生け花を絶やさないように活けて季節感を目で楽しまれて頂くようにしている。	玄関やリビングホールには、敷地内に咲いた花や職員が持ち寄った草花を飾り、壁面の工夫など季節を感じる空間が作られている。また、掘り炬燵が設けられた段上りの畳の間では足を伸ばし、食事や談笑など寛ぎのスペースとして活用されている。ケア日誌に温・湿度を記入し、空調設備が現状で十分であるかなど、過ごしやすい空間作りに活かしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良く過ごして頂くようにソファーや和室で思い思いに過ごせるように進めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れたものを持ってきていただき住み慣れた空間づくりを作り安心感や居心地良く過ごして頂けるように心がけている。。	入居時のしおりには、馴染みの品の持込について記し、新しく購入せずにその都度一緒に検討して行きたいホームの意向を伝えている。入居者の担当職員が中心に日々の掃除を行い、温湿度計により一人ひとりの部屋に応じた温室管理が行われている。また、衣類の入れ替えは家族や職員も協力しながら季節に応じた衣類や寝具が準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来る事を把握することに努め、新聞折、洗濯たたみ、野菜の皮むきなど、出来る事を手伝っていただいている。		